

Ⅱ 試験研究の推進

1 研究活動の概要

県は、平成31年度から令和10年度までの10年間の計画となる「いわて県民計画」を平成31年2月に策定した。

この「いわて県民計画」に基づき、農林水産部は、農林水産分野の長期的な技術開発の方針として「『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針」(以下「技術開発基本方針」という。)を策定した(令和2年3月)。

農業研究センターは、技術開発基本方針に基づき、令和5年度まで取り組む「岩手県農業研究センター試験研究推進計画」を策定した(令和2年3月、研究期間は令和5年度までとして策定)。

技術開発基本方針の5つの農業技術開発の方向に即し、15分野43の取組により、安全・安心で高品質な農畜産物を効率的かつ安定的に生産するために高度な技術の開発を進め、「農林水産技術立県いわて」の確立に取り組んでいる。

令和5年度の試験研究にあたっては、以下の3つの基本方針に沿って、新規22、継続89、合計101(小課題数ベース、分野を重複する小課題はカウント)の研究課題に取り組んだ。

1 県民視点の試験研究等業務の推進

- ・所得向上につながる普及性の高い技術開発
- ・産地づくりをリードする革新的な技術開発など

2 スピーディーな課題解決

- ・課題設定から普及定着まで、行政、普及、農業者と連携し一体的に推進
- ・連携強化による効率的・効果的かつ戦略的な技術開発

3 業務の「見える化」の推進

- ・知的財産の実用化促進
- ・研究成果・業務内容のPR及び視察等の受入れ

県独自予算の研究に加え、競争的資金等の活用や産学官連携による共同研究を推進し、農産・園芸部門で33課題(うち新規11課題)、畜産部門で3課題、合計36課題の共同研究に取り組んだ。

知的財産では、鉢物用りんどう「いわて八重の輝きブルー(いわて DfG PB-1 号)」(登録番号 30176)が品種登録された。また、「農業用排水装置およびその制御方法」(特許番号 7293546)が特許登録された。

本年度の試験研究から得られた成果は、内部及び外部(試験研究推進アドバイザー・生産者等)の評価を経て、73の研究成果(普及区分11、指導区分36、行政区分15、研究区分10)にとりまとめた。

機関評価委員会(視察・懇談会)を9月13日に本部を会場として開催した。当センターに対する理解を深めていただき、今後における円滑な機関評価の実施につなげることを目的に当センターの研究実施状況等について視察、意見交換を行った。

2 トピックス

(1) 特許・品種登録出願状況

区分	出願・登録内容	担当
特許	農業用排水装置およびその制御方法 【特許番号 特許第 7293546 号、登録 2023/6/12】	生産基盤研究部 水田利用研究室 【(株)クボタケミックス、岩手県共同出願】
種苗登録	りんどう いわて八重の輝きブルー(いわて DfG PB-1 号) 【登録番号 30176、登録 2024/3/26】 ・9月中旬咲きの鉢花向け八重咲き青花品種	園芸技術研究部 花き研究室

(2) 表彰等受賞状況

ア 令和5年度農林水産部長表彰

園芸技術研究部 内藤善美花き研究室長及び小澤傑専門研究員は、八重咲りんどうの超促成栽培による令和5年6月に開催された全国植樹祭の成功に貢献したとして農産園芸課職員とともに表彰された(令和5年11月8日)。

生産基盤研究部 吉津裕貴専門研究員、県北農業研究所 大里達朗首席専門研究員兼作物研究室長、農産園芸課 菅広和主査(元県北農業研究所所属)及び農業普及技術課革新支援担当高草木雅人主査農業普及員(元県北農業研究所所属)は、「アワ岩手糯 11 号」を育成し、雑穀生産振興に貢献したとして表彰された(令和6年3月25日)。

イ 第16回北日本病害虫研究会賞(研究報文部門病害分野)

園芸技術研究部野菜研究室 横田啓上席専門研究員、熊谷初美専門研究員及び久慈農業改良普及センター 佐々木達史農業普及員(元園芸技術研究部所属)は、「北日本病害虫研究会報第74号」で発表した報文「春タマネギ栽培における殺虫剤と殺菌防除剤が収量と腐敗に及ぼす影響」において、殺虫剤と殺菌防除剤を組み合わせることで防除効果が高まることを明らかにしたことが高く評価され受賞した(令和6年2月21日)

ウ 農林水産部政策提案型調査研究コンテスト「Wild Cup 2023」

ロックハンドバルーン育成会(発表者:園芸技術研究部 松橋伊織専門研究員 農業研究センター、タキイ種苗株式会社、JA岩手ふるさと)は、「10 年先のピーマン産地振興を見据えた岩手県オリジナルブランド品種(ロックハンドバルーン)を育成し、県産農産物を PR するアドバルーンへ!!」のテーマで優勝を受賞した(令和5年8月10日)。

オ 内部表彰

有益な研究・発明を行い優秀な成果をあげた職員や、事務の運営改善・簡素効率化に貢献した職員等に対し、農業研究センター所長表彰、畜産研究所長表彰及び県北農業研究所長表彰を下記のとおり行った。

表彰名称	件数	表彰者数	表彰年月日
令和5年度第1回農業研究センター所長表彰	7	14	令和5年10月11日
令和5年度第2回農業研究センター所長表彰	13	20	令和6年3月27日
令和5年度第1回農業研究センター畜産研究所長表彰	2	10	令和5年10月26日
令和5年度第2回農業研究センター畜産研究所長表彰	2	24	令和6年3月1日
令和5年度農業研究センター県北農業研究所長表彰	3	3	令和6年3月15日

3 研究室・課の動き

(1) 企画管理部

研究企画室

農業試験研究のアクションプランである「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、研究員の円滑な試験研究の支援、生産者や県民に開かれた農業研究センターを目指し、以下の事項について重点的に取り組んだ。

<顧客視点の試験研究の推進>

顧客のニーズに対応した試験研究を推進するため、農業普及技術課農業革新支援担当との作物別連携会議や現地検討会などを通じて顧客である農業者等のニーズの把握に努めた。

試験研究推進に際しては、研究課題の収集や試験研究推進アドバイザーを研究会議等に参集し、顧客目線での助言を得ながら課題設定や成果の取りまとめを行った。

センター運営や試験研究推進に対する外部評価を得るため設置した機関評価委員会を9月13日に本部を会場として開催し、当センターに対する理解を深めていただき、今後における円滑な機関評価の実施につなげることを目的に当センターの研究実施状況等について説明、意見交換を行った。

競争的研究資金等への応募のため、資金情報の提供や研究計画作成への助言を行うとともに、農業改良普及センターや県庁関係課との事前調整を行った。

<アウトカムを意識した研究成果の普及と情報発信>

研究センターの業務内容や研究成果の周知を図るため、マスコミへのプレスリリースやホームページにより積極的な情報発信を行なった。マスコミでの報道件数は、37件(前年34件)であった。ホームページは、年間174ページの更新を行い、研究活動の現在(いま)を分かり易く伝える「らぼ・れたあ」をメールやホームページにより年間47件(前年52件)発信した。さらに、X(旧Twitter)による情報発信では、ホームページの更新情報を中心にツイート数347回、フォロワー増加数44名、同じくFacebookでは投稿数189回、フォロワー増加数72名であった。

<専門知識と技術を有する人材育成 ～ 新たに若手研究員を対象とした所内コンペを開催>

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員等育成方針」(令和4年策定)に基づき、専門性の高い人材の育成に向け、各種研修等への参加を誘導した。また、研究員の自由な発案に基づく研究課題の設定を促すため、若手研究員を対象とした所内コンペティションを4～7月に開催し、7課題を採択・予算配分したほか、センター内の学位取得者や論文査読経験のある職員11名を若手研究員育成サポーターとして設置し、若手研究員に対して論文投稿や学会発表を始めとした研究業務全般のアドバイスをを行うなど、重点的に育成を図った。

なお、各分野の中核を担う研究員の計画的な育成をさらに効果的・効率的に進めるため、職員個々が研修計画を策定し実践するとともに、発展段階に応じた集合研修を企画・実施している。

予算管理面では、「不正防止計画」に基づいたモニタリングと内部監査の実施により適正な経理事務を支援した。また、研究備品の更新計画をローリングした。

農業経営研究室

「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、収益力の高い農業経営体の育成等に向け、農業構造・経営管理分野の研究について、以下のとおり取り組んだ。

<収益性の高い農業経営モデルの提示>

「集落営農組織の実態・課題を踏まえた経営維持・発展方向の提示」では、「複数の集落営農法人が出資する広域連携法人の特徴と取組の意義」及び「集落営農法人間の連携支援方策」を研究成果として提示した。

「スマート農業技術の導入・定着プロセスと利活用方策の提示」では、県内外の先進事例調査に基づき、「施設園芸経営における環境モニタリングデータの活用条件と指導方策」を研究成果として提示した。

<経営意思決定支援情報の提供>

「経営環境の変化に対応した農業技術体系データの提示」では、生産技術体系データ(2025年版)及びスマート農業技術体系データの作成に向け、必要な経営調査・データ収集等を行った。

＜本県の農業構造の現状及び動向の提示＞

「2020 年農林業センサス等を活用した農業構造動向分析」では、農林業センサス個票データをもとに算出した将来の農業経営体数や離農に伴う供給農地面積等の予測値を地域単位で閲覧できる「AI 手法を用いた岩手県農業構造動向予測データブック」及び「岩手県農業構造動向予測データブックからみた本県農業構造変化の見通し」を研究成果として提示した。

(2)生産基盤研究部

水田利用研究室

水稻・畑作物(麦類・大豆)の奨励品種決定調査、麦・大豆の作柄解析、麦・大豆の原種・原原種生産、農村整備分野の遠隔自動給排水システム・地下かんがいシステムの実証試験等に取り組んでいる。

＜水稻品種＞

水稻の奨励品種決定調査では、本調査において粳3系統を供試し、現地調査では粳を13か所で検討した。

水稻作用除草剤第2次適用性試験では、新たに開発された水稻の除草剤の効果の確認と雑草防除体系の確立のため、10 剤を場内ほ場で試験した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・令和5年度における水稻奨励品種決定試験の本調査・現地調査結果（行政）

＜麦類＞

麦類奨励品種決定調査では、小麦3系統を供試した。

ナンブコムギに縞萎縮病抵抗性を付与した系統の育成のため、場内にて東北農業研究センターとの共同研究で、縞萎縮病に強い個体の選抜に取り組んだ。

縞萎縮病に強く収量性が高い日本麺用品種「ナンブキラリ」について、播種量及び追肥時期・量試験に取り組んだ。

麦類耐寒雪性検定試験では、現地ほ場（一戸町奥中山）において、育成地より配布を受けた104系統の雪腐病に対する耐性調査に取り組んだ。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・日本麺用小麦品種「ナンブキラリ」の栽培法と目標生育量(普及)

＜大豆＞

大豆奨励品種決定調査では、普通大豆4系統を供試した。

＜種子生産＞

小麦は原種3品種を4.5t生産した。大豆は原種3品種を3.1t、原原種3品種を0.5t生産した。

＜地下かんがいシステム・ほ場水管理システムの利用技術＞

地下かんがいの利用技術では、大豆栽培での営農実証を行うとともに、地下かんがいシステムによる暗渠管の清掃効果を検証した。また、暗渠疎水材(桧殻)の経年劣化の状況についても現地調査を行った。

ほ場水管理システムの導入実証では、ほ場水管理システムのプログラム運転機能を使用して、登熟期に夜間かけ流し、日中落水管理の高温対策技術を実証した。

生産システム研究室

水田農業の担い手である大規模経営体や集落営農等の意欲と能力のある農業経営体を支援し、収益性の向上を図るため、スマート農業技術の実証、水稻の作柄解析や優良な水稻原種・原原種の実証・生産・供給に取り組んだ。

＜水稻栽培＞

記録的な夏季高温や雪害等気象変動に対応し、水稻の品質・食味の維持、向上を図るための技術開発や、作況調査及び現地生育データなど総合的な解析に取り組み、今年度は以下の3つの研究成果を公表・提示した。

- ・令和5年岩手県産水稻の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析(指導)

- ・ 雪害等によりハウスが利用できない場合の水稲露地プール育苗の留意点(指導)
- ・ 稚苗「ひとめぼれ」における次位・節位別分けつの発生及び着生粒の特徴(研究)

＜水稲種子生産＞

原原種は、うるち3品種について約 590kgを生産した。また、原種は、うるち8品種、もち1品種について約 26tを生産した。

＜スマート農業・リモートセンシング技術＞

省力的な栽培技術や導入しやすいスマート農業技術、リモートセンシング技術を活用した水稲生育診断技術の開発や、高効率な農業機械の開発に係る基礎的研究に取り組み、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ ほ場でも容易に実施できる無人航空機(ドローン)を利用した水稲リモートセンシング技術(追補)(指導)

作物育種研究室

＜水稲育種＞

いわてブランド米品種開発推進事業に取り組み、生産力検定本試験から、生育・収量調査および各種特性検定試験の結果に基づき、「岩手 157 号」(「いわてっこ」熟期の耐冷性に優れた大粒の多収系統)、「岩手 158 号」(「あきたこまち」熟期のいもち病圃場抵抗性に優れた多収系統)、「岩手 159 号」(「ひとめぼれ」熟期の耐冷性、耐倒伏性に優れた良食味多収系統)、「岩手 160 号」(「金色の風」の食味関連遺伝子を有し、収量性が「ひとめぼれ」を上回る良質良食味系統)、の4系統を選抜した。

隣接する(公財)岩手生物工学研究センターと連携してゲノム解析技術と独自の遺伝子資源の活用により、急務となっている気象条件に左右されにくく、環境に配慮した栽培特性を持つ品種、中食・外食ニーズに対応した品種等の新たな価値を持つ育種素材の充実化に取り組んだ。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・ 令和6年度水稲奨励品種決定調査 本調査・現地調査に新たに供試する系統(行政)
- ・ 令和6年度水稲奨励品種決定予備調査に新たに供試する「岩手 157 号」、「岩手 158 号」、「岩手 159 号」、「岩手 160 号」(行政)
- ・ 水稲品種「金色の風」における玄米粒厚と食味及び品質の関係(指導)

＜実需ニーズに即した超多収低アミロース米品種群の開発と

普及に向けた加工・流通条件の解明によるチルド米飯市場の拡大＞

令和5年度オープンイノベーション研究・実用化推進事業開発研究ステージ現場課題解決タイプに応募し、不採択となった。

令和6年度再応募へ向けて課題を整理し、ゲノム育種による有用遺伝子集積の加速化、沖縄県での多期作栽培による集団育種の加速化、米胚乳酵素活性量による加工適性評価の加速化といった高速育種法により、超多収低アミロース米の育成に取り組むと同時に、実需者による業務用米としての品質評価、大規模炊飯試験等によるラインテスト等を実施し、社会実装を見据えた研究に取り組んだ。

＜精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稲品種の育成＞

(公財)岩手生物工学研究センターとの連携のもと、「ひとめぼれ」の栽培特性(耐倒伏性、耐病性及び高温登熟耐性等)をゲノム育種で改良し、低コスト生産可能な安定した超多収良食味水稲品種の開発を目指し、本年は生産力検定試験を青森県・宮城県・福島県と協力しながら効率的な系統育成に取り組んだ。また、奥州市江刺に現地試験ほ場を設置し、現地栽培での知見を得た。

(3)園芸技術研究部

果樹研究室

りんごを主体に、ぶどう、西洋なし、おうとう、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。特に、早生から晩生までを網羅するオリジナルりんご品種の開発を掲げ、その中でも9月下旬～10月上旬に収穫できる優良中生品種の開発を重点課題としている。

また、温暖化によるリスクの解消、軽減を図るため、凍霜害、裂果等のリスク対策の開発に努めると共に、果樹の早期成園化や管理作業の省力化につながる栽培技術の開発に向けた課題を実施している。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・貯蔵性が優れる大玉で着色良好な赤色系晩生りんご品種「岩手15号」(普及)
- ・ぶどう「シャインマスカット」における1回目ジベレリン処理後の果軸長調整による摘粒省力効果(普及)
- ・岩手県における生食用ものの品種特性と優良品種の選定(普及)
- ・りんご「大夢」の裂果を軽減する摘果時期(指導)
- ・りんご「はるか」に対する摘花剤・摘果剤の効果と有袋果における果皮への影響(指導)
- ・りんご「ふじ」の各仕立て法による導入コスト、作業労力、収量性(指導)
- ・令和5年度に発生したりんご「ジョナゴールド」のこうあ部の内部裂果と周辺部果肉の軟化及び粉質化症状(指導)
- ・被覆資材利用によるりんごの日焼け果発生軽減対策(指導)
- ・リバビリンの散布処理によるリンゴ高接病ウイルスの増殖抑制効果(研究)

野菜研究室

“岩手県野菜生産振興計画”を踏まえ、環境制御技術等を活用した施設野菜の単収向上や品質向上技術の開発、水田等を活用した土地利用型野菜の生産拡大に寄与する栽培技術の開発に関係機関・団体と連携して取り組んだ。

環境制御技術の開発については、県内の民間企業が開発した小型光合成促進機を用いた炭酸ガス局所施用による「低コスト環境制御技術」の普及拡大に向け、果菜3品における技術確立に取り組むとともに、県内の6経営体において技術実証を行った。

土地利用型野菜の安定生産技術の開発については、全日本野菜品種審査会(たまねぎ春まき早生)を開催し、本県の気候に適した品種の確保を図るとともに、オープンイノベーション研究・実用化推進事業に採択された「国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除構築」に取り組んだ。また、食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクトに採択された「加工歩留まりの高いF1タマネギ品種の開発」において、東北地域に適する縦長性タマネギの品種登録を目指した研究開発に取り組んだ。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・雨よけ夏秋ピーマンの尻腐れ果発生を低減できるかん水指標(指導)
- ・雨よけ夏秋ピーマンの隔離床点滴かん水施肥栽培における収量特性(指導)
- ・雨よけ夏秋ピーマンにおいて低コスト環境制御技術を導入する際に収益が向上する栽培条件(指導)
- ・小規模ハウスにおける効率的な二酸化炭素局所施用システム(指導)
- ・トマトの雨よけ普通栽培における低コスト環境制御技術導入による増収効果(指導)
- ・たまねぎ秋植作型におけるセット栽培の可能性(研究)

花き研究室

花きは、日本一の生産量を誇るりんどうに重点をおき、新品種の育成、種苗の安定生産・供給及び安定生産技術の開発に取り組んだ。

新品種の育成について、切り花向け品種は8月盆および9月彼岸の需要期を中心に切れ目ない出荷を可能とする青色系品種のラインナップを充実させるため、複数品種の育成に取り組んだ。品質が低下している既存品種を花色、花型、草姿などの品質が優れた品種に置き換えていくため、本年度も有望なF1系統の特性検定を実施した。また、鉢花向け品種は、令和元年度に成果公表した新奇性の高い青色系八重咲き品種「いわて八重の輝きブルー」に続く、桃色系、白色系の有望系統等を中心に特性検定を実施した。

種苗の安定生産・供給については、これまでに育成した県品種の親系統の維持等に取り組んだ。本年度は、(公社)農産物改良種苗センターへの原種苗として、「Ho」等の種子系親系統として7系統、「YRy」等の培養系親系統として2系統を供給するとともに、採種ほ場の管理や採種技術等について指導を行った。

栽培技術については、育成品種の生態的特性や株養成技術のほか、特許を取得した「千鳥疎植栽培」の普及に向け、晩生品種「いわて夢のぞみ」等での技術確立に取り組んだ。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・7月下旬～8月上旬開花の切り花向け青色りんどうF1品種「いわてEB-4号」の育成(普及)
- ・鉢花りんどう「いわて八重の輝きブルー」における挿し穂冷蔵法の適用性(指導)
- ・りんどう晩生品種「いわて中秋のあい」における全茎収穫栽培の適用条件(指導)
- ・令和5年度りんどう奨励品種決定試験・現地適応性試験結果(行政)
- ・令和6年度りんどう奨励品種決定試験・現地適応性試験に新たに供試する系統(行政)

- ・りんどうの着色障害(日焼け花)の解析素材となる純系系統(研究)
- ・重イオンビームによる突然変異育種法で作出した鉢花りんどう有望系統(研究)

南部園芸研究室

陸前高田市において沿岸地域の夏季冷涼・冬季温暖な気象特性を活かした園芸産地の育成と、東日本大震災津波(H23.3.11)からの農業復興支援を目的とした技術拠点として、地域に密着した研究と技術指導を実施している。

いちごの品種比較試験については、東北農業研究センターとの共同研究により、夏秋どり作型に適した四季成り性系統の選定を実施した。また、促成栽培向けでは既存品種の中から、本県での栽培に適し、収量性に優れ、省力性の高い品種を選定、安定生産を図るための試験や病害抵抗性を有する系統・品種の栽培特性の評価に取り組んだ。

いちご閉鎖型高設栽培システムの管理方法の改善については、ベンチ構造に対応した効果的な施肥方法について検討を行った。

いちご夏秋作型における秋期収量向上対策については、四季成り性品種「なつあかり」の LED 電球による電照方法や最適な花房管理方法等の検討を行った。

また、農研機構東北農業研究センターとの共同育種により開発した四季成り性いちごの新品種「夏のしずく」(品種登録出願中)について、収量ポテンシャルを最大に引き出し、安定生産が可能となる栽培方法の検討を行った。

現地指導では、気仙地域3市町、JA、農業改良普及センター等の関係機関と連携し、陸前高田市大規模園芸施設(米崎)におけるいちご栽培指導のほか、県南いちご産地の指導会を通じて促成栽培向け品種「恋みのり」の栽培特性の理解促進、いちご閉鎖型高設栽培システムや夏秋どり作型の導入・検討をする農業者等へ個別相談を行った。

(4) 生産環境研究部

土壌肥料研究室

土壌養分の蓄積及び不足に対応した効率的な施肥管理技術の開発、有機物及び未利用資源を有効活用するための技術開発、高品質な農産物の安定生産・供給のための肥培管理技術の確立、農産物の安全性を確保するための栽培管理手法の開発を柱とした研究課題に取り組んだ。

昭和 54 年度から5年ごとに、県内の水田と畑地の定点圃場について施肥管理等のアンケート調査と土壌調査を継続してきているが、令和5年度は9巡目の取りまとめを行い、水田土壌と畑土壌についてそれぞれ 40 年間の調査結果を取りまとめた成果とした。この中では、堆肥施用量の減少傾向や可給態リン酸の適正範囲への収れん、交換性カリの減少といった傾向が明らかとなった。また、調査水田の約3割において施肥から入水までの期間が 15 日以上となっており、こうした畑期間の長期化が水稻の生育・収量へ及ぼす影響についても、速効性肥料利用体系を対象に指導区分の成果とした。

また、水稻の生育栄養診断を簡易に実施するリモートセンシング技術として、携帯型 NDVI 測定機「グリーンシーカー」による窒素吸収量の推定等について指導区分で、マルチスペクトルカメラを搭載したドローンによる NDVI 値と水稻生育・栄養診断指標との関係性について研究区分で、それぞれ成果をまとめた。

このほか、水田および露地野菜畑における有機物連用試験において、土壌での炭素貯留による地球温暖化への影響把握の基礎データを提供しているほか、気候変動下で越冬後の気象条件が変わってきている中、現在主力となっている小麦品種に適した多収肥培管理技術の確立、プラスチック被膜を使用しない緩効性肥料などの実用性試験を実施した。

また、国のプロジェクト研究やイノベーション創出強化研究推進事業の共同研究に参画し、AI(人工知能)を活用した土壌分類支援技術開発や窒素動態モデル開発に向け土壌断面調査(県中部 75 点)や無機態窒素発現に係る試験を実施した。

なお、令和5年度は東北土壌肥料協議会の事務局担当県となり、7月に盛岡で開催された日本土壌肥料学会東北支部大会および東北農業試験研究推進会議生産環境部会土壌肥料研究会と連携して、これらの運営を支援するとともに、コロナ禍で休止していた現地検討会を4年ぶりに実施した。学会公開シンポジウム「下水道資源の肥料への応用ー地域内の肥料資源のリサイクルシステムの構築に向けて」及び土壌肥料研究会のテーマ「国内の肥料資源の有効活用に向けて」と協調し、雫石町「(株)バイオマスパワーしずくいし」におけるバイオマス発電事業、(公財)岩手県下水道公社「都南浄化センター」における下水汚泥のエネルギー・資源利活用について見学し、参加者から好評であった。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・携帯型 NDVI 測定機による水稻幼穂形成期の簡易栄養診断値及び窒素吸収量の推定 (指導)
- ・水稻の速効性肥料利用体系における施肥から入水・荒代までの畑期間が水稻生育に及ぼす影響 (指導)
- ・県内水田土壌 40 年間の施肥管理と化学性の変化 (指導)
- ・県内畑土壌 40 年間の有機物施用と化学性の変化 (指導)

- ・マルチスペクトルカメラ搭載無人航空機(ドローン)の画像解析値と水稻生育・栄養診断指標との関係 (研究)

病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産を目指した病害虫制御技術を確立するため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術、生物的防除など環境にやさしい病害虫防除技術及び病害虫総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだほか、本県の病害虫防除指導の技術資料である「岩手県農作物病害虫雑草防除に関する技術資料」の原案作成や、これらの基礎資料となる新農薬の効果検定等にも取り組んでいる。

令和5年度は、斑点米カメムシ類の現地での発生状況や斑点米被害率調査、施設トマトでの主要害虫に対する総合防除技術の確立、リンゴ褐斑病及び黒星病を対象とした春季の防除体系の再構築、ロボット草刈機を用いた下草管理とハダニ類及びカブリダニ類の発生に及ぼす影響調査、近年発生時期が早期化していたリンドウ黒斑病の生態解明と防除試験等を実施した。

また、国の委託プロジェクト研究による省力的 IPM を実現する病害虫予報技術の開発、接触伝搬性ウイルスに対する月桃資材の利用法の確立、ビール酒造組合の委託事業としてホップの新規除草剤の登録推進に係る防除試験・作残試料調製等を実施した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・リンゴ黒星病の前年発生園における防除対策(普及)
- ・アカスジカスミカメ越冬世代幼虫の孵化時期の早期化と草刈り時期(指導)
- ・水稻品種「銀河のしずく」における斑点米カメムシ類の防除回数(指導)
- ・水稻品種「ひとめぼれ」における割れ粳の発生要因と斑点米カメムシ類の追加防除の要否(指導)
- ・リンゴ褐斑病に対する開花直前散布の防除効果(指導)
- ・気象データを用いたリンゴ褐斑病の発生予察法(指導)
- ・畑わさびにおける絵とフェンプロックス粒剤の融雪直後処理の効果(指導)
- ・りんどう「いわて中秋のあい」におけるモザイク病の発生特徴と防除対策(指導)

(5) 病害虫防除部

病害虫防除課

＜病害虫発生予察＞

水稻、麦類、大豆、りんご、きゅうり、キャベツ、ねぎ、りんどうを対象として発生予察等の調査を行い、定期情報7回、注意報7回、特殊報2回に加え、防除速報12回を発行した。これらの情報については、印刷物のほか、メーリングリストによる配信、いわてアグリベンチャーネットへの掲載、マスコミ活用等により、関係機関・団体、共同防除組織等に提供した。

情報の種類		発行回数	内 容
発生予察情報	定 期 情 報	7	3～10月
	注 意 報	7 (前年比1増)	水稻：細菌病(育苗期)、斑点米カメムシ類 りんご：リンゴハダニ、黒星病、キンモンホソガ、褐斑病・斑点落葉病、ハダニ類
	警 報	0	
	特 殊 報	2 (前年比1増)	トマトキバガ トルコギキョウ斑点病
病害虫防除速報	—	12 (前年比5減)	・水稻(6回)：斑点米カメムシ類3、いもち病3 (取置苗・葉・穂) ・小麦(1回)：赤かび病 ・りんご(2回)：黒星病、褐斑病 ・ねぎ(1回)：さび病 ・りんどう(2回)：リンドウホソハマキ、花腐菌核病

＜病害虫防除指導＞

本県の病害虫等の発生実態に応じた効果的・効率的な総合防除の実施を推進するため、関係機関・団体と緊密な連携をとりながら病害虫防除指導に取り組んだ。今年度の実績は、病害虫防除実績検討会を開催して主要病害虫の発生要因解析と次年度の防除対策について関係機関・団体と共有し、今後の地域防除体制の資とした。

水稻の病害虫防除指導においては、各地方の病害虫防除協議会、JA 稲作部会等が中心となり、病害虫防除所が発行す

る発生予察情報を活用した防除指導が実施された。加えて、経験の浅い若手指導者等を対象とした「病虫害防除指導者研修会」を開催し、いもち病と斑点米カメムシ類の発生生態と防除対策等を指導した(6/9、38名)。現地調査では、斑点米カメムシ類が広域で発生したことに加え、高温気象の影響で多発することが懸念されたことから、7/28 斑点米カメムシ類の注意報を発表したほか、調査結果に基づき防除速報も発表して防除の徹底を呼び掛けた。また、巡回調査地点の農家 85 件の防除実績等を収集し、発生要因解析を行い、次年度以降の防除指導の資とした。

果樹では、気象の影響でりんごの展葉が早まり、黒星病の感染時期も早まることが懸念された。また、現地調査ではリンゴハダニが多発していたことから、3/31 に黒星病とリンゴハダニの注意報を発表したほか、4/7 に黒星病の速報を発表して適期防除を呼び掛けた。その後の調査で各種病虫害の多発がみられたことから、4/28 キンモンホソガ、6/29 褐斑病・斑点落葉病、7/28 ハダニ類に注意報を発表して防除を呼び掛けた。褐斑病は7月に多発園地がみられたため、7/28 に防除速報を発表した。なお、りんごの防除実績は、県内 72 の共同防除組合等から収集し、次年度の防除計画の改善に資した。

野菜・花きについては、りんどうの害虫リンドウホソハマキの早期発生が見られたことから、5/15 に防除速報を発表して速やかな防除を呼び掛けた。一方で、秋期に発生する花腐菌核病は、高温気象のため子実体の発生が例年より遅くなったため、子実体を確認後、10/2 に防除速報を発表した。ねぎでは、通常発生が少ない7月にさび病が見られたことから、7/12 に防除速報を発表した。防除実績を野菜 21 件、りんどう 11 件の農家から収集し、次年度の防除計画の策定に資した。

今年度から国が指定する対象病虫害 21 種類について、県内における侵入調査を実施した。そのうち、県中部2カ所に設置したフェロモントラップにトマトキバガが初めて誘殺されたことから、8/8 に特殊報を発表し、県内に広く注意喚起した。

病虫害診断については、44 件の依頼に対応した。トルコギキョウにおいて、トルコギキョウ斑点病による被害が初めて確認されたことから、他県における発生事例を参考に防除対策を指導するとともに、1/24 に特殊報を発表して注意喚起した。

＜農薬適正使用指導＞

農薬の適正な販売や使用を徹底するために、農薬の販売者や使用者に対する「農薬適正販売・使用研修会」を開催している。過年度には新型コロナウイルスの感染拡大により、講師を県内在住者に限定して人数制限や時間短縮、開催時期の延期も余儀なくされたが、今年度は通常規模により開催した(7/11、受講者 179 名)。

また、農薬取締法に基づき 319 件の農薬販売者への立入検査を実施したほか、農薬使用基準違反の確認された使用者に対し6件の現地指導を行った。

12 月に県外保健所による収去検査で、県内産りんごの農薬残留基準値超過が確認された。関係機関・団体と連携して原因究明したが、共同選果による出荷のため、生産者も超過原因も特定できなかった。そのため、再発防止を目的として当該地域の生産者を対象とした農薬適正使用研修を実施し、あらためて注意喚起した。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

＜肉用牛＞

(直接検定、現場後代検定) 優秀な日本短角種の種雄牛を造成するため、令和4年直接検定牛より、現場後代検定牛5頭を選抜した。また、令和2年交配種雄牛5頭の現場後代検定成績を公表した。また、各牧野で供用する種雄牛や繁殖雌牛群を選定する際、近親交配を回避するため、産子の近交係数を算出する既存のソフトを改良し、簡易・省力的に試算が行えるようにした。

(肥育技術) 肥育コストの低減や需要に応じた効率的な肥育技術を確立するため、黒毛和種肥育専業経営体の肥育期間の短縮技術と、日本短角種の周年出荷のための長期飼育下における歩留等級の低下を防ぐための技術や配合飼料を節減し、低コスト化を図る技術について、肥育試験を実施している。

(ゲノミック評価) 黒毛和種の種雄牛造成において、直接検定牛と新規登録審査雌牛のゲノム育種価を算出し現場後代検定牛の選抜及び基礎雌牛の選定に活用した。

枝肉6形質の正確度が 0.95 を越える種雄牛の推定育種価とゲノム育種価の相関について、全国及び岩手県の訓練群で比較し、岩手県の訓練群でも中程度から高い正の相関を確認した。また一価不飽和脂肪酸割合についても高い正の相関(0.76)が確認でき、ゲノム育種価の活用による脂肪酸組成の改良が可能であることを明らかにした。

県内黒毛和種集団の枝肉における新細かさ指数とオレイン酸割合及び一価不飽和脂肪酸割合について、性別の違いによる平均値の違いの傾向を把握するとともに、オレイン酸割合及び一価不飽和脂肪酸割合の遺伝率(0.53)及び枝肉6形質の遺伝相関(皮下脂肪厚と弱い正の相関)を明らかにした。

黒毛和種の子牛の生産性低下や種雄牛の精液性状に関与する可能性の高い候補有害変異をゲノム情報から明らかにする試験を開始し、DNA を解析中である。

日本短角種集団の遺伝的多様性を把握し近交回避を考慮した交配法に活用するため、SNP 遺伝子型の主成分分析を行い、種雄牛の遺伝的多様性は大きく雌牛の分集団化の傾向がないこと、ただし繁殖雌牛の血統を系統別に解析すると、父方及び母方祖父が同じ系統の種雄牛である場合、雌牛が分集団化する傾向にあることを確認した。

(繁殖)黒毛和種繁殖牛の妊娠末期から授乳期にかけて、栄養充足率が低いと分娩後の子宮回復が遅れ(多形核白血球割合%、子宮内膜腫脹、陰粘液性状の各スコアが劣る)、初回排卵日数や空胎日数に影響を与えていることを明らかにした。また、尿試験紙の白血球検査項目の判定区分により、子宮回復遅延牛を簡易に判定する手法を確立した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果を公表した。

- ・日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 (行政)
- ・日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績 (行政)
- ・日本短角種雄牛配置シュミレーションを現地で容易にできる近交係数集計シート(指導)
- ・と畜月齢や飼料銘柄が日本短角種枝肉性状へ及ぼす影響(行政)
- ・尿試験紙を活用した黒毛和種繁殖雌牛における分娩後の子宮回復遅延牛の簡易判定技術(指導)
- ・岩手県黒毛和種雄牛における一価不飽和脂肪酸割合のゲノム育種価の推定精度(行政)
- ・県内黒毛和種集団における一価不飽和脂肪酸割合の遺伝的パラメーター及び育種価の推定 (行政)
- ・岩手県黒毛和種集団をリファレンス集団とした枝肉6形質に係るゲノム育種価の算出と推定精度(研究)

<中小家畜>

(養豚) バークシャー種の産肉能力向上のため、産肉能力検定と外部精液導入による種豚群の改良を進めるとともに、肥育豚の可食肉量を増加させる蛋白質給与体系の確立に取り組み、可食肉量の増加には飼料中の蛋白質水準のほか可消化養分総量の調整が必要であることが示唆された。

(養鶏) 地域飼料(玄米とくず大豆)を有効活用した南部かしわへの長期給与実証試験を実施し、性別と季節別の発育及び産肉成績並びに収益性を明らかにし、長期飼育の特徴をまとめ令和5年度の南部かしわ研究会で研究成果を発信した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・南部かしわを玄米及び規格外大豆を混合した飼料で長期飼育した際の性別及び季節別の発育、産肉性及び肉色の特徴と収益性(指導)
- ・バークシャー種肥育豚への高蛋白飼料給与効果と可食肉量(研究)

家畜飼養・飼料研究室

<家畜飼養>

乳用牛群検定データの解析による酪農の生産性向上要因の分析と活用では、授精頭数割合は暑熱期に低下する一方、分娩頭数は暑熱期に多く偏在し繰り返されることを明らかにした。また、暑熱期分娩牛の乳量は少なく、分娩頭数に対する搾乳牛頭数の割合が低く推移することから、産乳性を低下させている可能性があることを明らかにし、2研究成果(区分:行政)に取りまとめた。

繋留飼養の搾乳牛における効果的な TMR 給与方法の確立では、日内の採食行動は乳期によらず概ね同じパターンであり、乳期による採食量の変動は、採食速度の変化によって生じている可能性があることを明らかにした。

乾乳期における放し飼いの普及に向けた管理体系の確立では、併給飼料がある飽食管理の放牧条件では、消費エネルギーが増加することで、春～夏にかけてのボディコンディションスコアの増加を抑制している可能性があることを明らかにした。

また、県乳用牛群検定情報分析センターとして、現地の指導機関向けに「岩手県における乳用牛群検定成績のまとめ」の令和4年版を取りまとめ、市町村別生産成績速報も概ね隔月の頻度で提供したほか、研修会への講師派遣を行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・岩手県の乳用牛における繁殖管理の実状と分娩時期への影響(行政)
- ・岩手県の乳用牛における分娩月の違いが産乳性に及ぼす影響(行政)

<飼料生産>

トウモロコシ市販品種の特性比較では、中晩生6品種を検討し県推奨品種候補とするための生育、収量データを収集した。このうち収量性が優れ、県の「総合評価法」により2年連続でA評価であった SH5702 を研究成果(区分:普及)に取りまとめ公表した。

寒地型イネ科牧草の特性比較では、ペレニアルライグラス(PR)とオーチャードグラス(OG)について、PRは晩生3品種の利用2年目の生育、収量特性データ、OG は極早生、早生各2品種の利用1年目の生育データを収集した。いずれの草種とも次年度も継続調査する。

温暖化に対応した採草地管理については、OG 及びチモシーの播種晩限期、更新翌年の肥培管理方法、夏季高温を考

慮した刈取間隔を検証するためのデータを収集した。

多年生ライグラスを利用した追播技術の確立では、所内に実規模の試験ほを設置し追播した PR 新品種「夏ごしペレ」の利用1年目の収量や植生データを収集した。追播播種量試験を開始し、播種量が多いほど播種当年の初期生育や植生が良いことを確認した。

また、飼料高騰対策のために、既往成果の知見提供や研修会への講師派遣を行った。岩手県コントラクター等利用推進協議会への参画においては、県内コントラクターのオペレータ確保、育成に向けた支援活動を行った。県内で取組が増加している子実用トウモロコシは、東北農業研究センターが主宰する水稻乾田直播・子実用トウモロコシ普及促進会に参画し、情報収集を行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・乾物収量に優れた飼料用トウモロコシ晩生品種「スノーデント 118R(SH5702)」(普及)

＜牧草の放射線対策＞

先端プロ実証研究において、除染草地の簡易更新時に利用した土壌改良カリ資材の牧草中放射性セシウム(RCs)濃度の抑制や牧草のテタニー比への影響を調査し、利用5年目の牧草中 RCs 濃度は有意な差ではないものの塩化カリ区の方が高く維持された。また、同研究では耕起困難草地の放牧利用における、カリの肥効の持続性や施肥労力の省力化をねらいとした緩効性肥料の施肥効果を検討するため、草地利用3年目の収量、牧草及び土壌の RCs 濃度、成分データ等を収集した。

外山畜産研究室

＜子牛の生産状況＞

外山畜産研究室では繁殖雌牛 76 頭(黒毛和種 36 頭、日本短角種 40 頭)を飼養している(令和 6 年2月1日現在)。

黒毛和種では、生産された子牛のうち 18 頭を1頭当たり平均 444 千円で販売した。同様に日本短角種の子牛は 25 頭を出荷し、1頭当たり平均価格は 227 千円であった。

＜成果の発信状況＞

ドローンを活用したリモートセンシングによる大規模放牧地の効率的植生診断技術について検討したところ、ドローンによる撮影画像から作成したオルソモザイク画像を、画像解析ソフトを用いた機械学習により解析することで植生改善が必要な地点の把握及び植生ごとの占有面積の算出ができた。

撮影時期の適期は、牛の入牧前で牧草が伸長する前の5月頃であり、本手法により算出した5月撮影画像の植生ごとの被覆割合の解析誤差はノイバラ 1.3 ポイント、牧草 8.7 ポイント、裸地 7.7 ポイントであった。

また、本手法による植生診断に係る作業時間は、従来法と比較して大幅な短縮が可能となった。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・無人航空機(ドローン)を用いた放牧地における植生診断技術(指導)

＜寄託放牧の状況＞

寄託放牧は、日本短角種と馬を生産者から預かり、低コスト生産に寄与している。

日本短角種については、5月 23 日から 10 月 20 日まで 150 日間放牧を実施し、生産者4戸から繁殖牛 37 頭と子牛 31 頭受入れた。

また、馬については5月 16 日から 10 月 13 日まで 150 日間放牧を実施し、雌馬7頭、雄馬1頭、子馬3頭を受入れた。古くから馬産地として馬を大事に扱ってきた盛岡地域の伝統的な祭り「チャグチャグ馬つこ」で行進した馬たちを預かり、適切な管理に努めた。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業の一環として県内産黒毛和種種雄牛候補牛8頭を選定し直接検定を実施した。また、令和4年度直接検定終了牛から現場後代検定を実施する候補牛3頭(「成美之12」、「山百合」及び「勝乃富士」)を選抜した。現場後代検定については令和4年度に検定を開始した3頭の種雄牛候補の枝肉成績が判明し、「福太郎3」「菊美翔平」を基幹種雄牛に選抜した。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果を公表した。

- ・脂肪交雑の産肉能力に優れる黒毛和種県有基幹種雄牛「美津貴(みつぎ)」号(普及)
- ・黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績(行政)
- ・黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績(行政)

＜たねやま営業部の取組＞

専任職員又は研究員が、(一社)岩手県畜産協会が行う凍結精液の配送業務に同行して家畜人工授精師及び凍結精液を所有している農家等へPRを行ったほか、大規模生産農場を個別訪問して情報提供する等の販売活動に取組んだ。また、PRに活用するための情報収集にも取組み、県有種雄牛産子の一般肥育農家での肥育成績を収集するとともに、枝肉共励会における成績も調査した。

- ・配送業務に同行してのPR: 97 日 (のべ 239 か所、2月末時点)
- ・大規模生産農場を個別訪問してのPR: のべ 12 農場
- ・研修会等での情報発信: 22 回
- ・県有種雄牛産子の肥育成績の収集: 257 件 (2 月末時点)
- ・枝肉共励会の成績の調査: 29 件

(7) 県北農業研究所

園芸研究室

県北・沿岸地域の冷涼気象や中山間地域の立地条件に対応した野菜の安定生産技術の確立に向け、各種試験研究を実施した。

令和3年2月に高度な環境制御が可能な「環境制御型園芸温室」が竣工し、県北の施設きゅうり栽培に適した環境制御技術の確立に向け、令和3年度から北いわてスマート農業プラットフォーム創造事業培試験を、令和5年度からデータ駆動型業推進事業を活用して研究に取り組んでいる。具体的には、既存パイプハウス向けの技術として株元加温による低コスト暖房技術開発に取り組む、また、環境制御技術導入による収量向上に伴って作業労力の増加が懸念されるため、その出荷量及び生育量を予測する手法として、環境制御技術のモニタリングデータを活用した生育診断・出荷量予測ツールの開発にも取り組んでいる。

また、「雨よけほうれんそうにおけるミストによる簡易環境制御技術の開発」に向け、農業普及技術課農業革新支援担当や久慈農業普及センターと連携して、ミスト制御による増収効果と品質向上効果について前年度に引き続き検証し、夏期高温時（特に、8～9月収穫）の単収向上及び品質の安定化に取り組む、今年の記録的な猛暑の中でも本技術の有効性が確認できた。

露地の主要品目であるキャベツについて、重要病害である根こぶ病対策として、既存の抵抗性品種の栽培特性を把握すること、および県内で発生している根こぶ病の病原型を明らかにすることで、抵抗性品種を有効に用いた根こぶ病対策の確立を目的として、場内及び現地発生圃場において試験を実施した。

以上の取組の中から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・複合環境制御によるきゅうりハイワイヤーつる下ろし栽培に適した品種の特性および作型（指導）
- ・根こぶ病抵抗性キャベツ品種の抵抗性評価（研究）
- ・複合環境制御によるきゅうりハイワイヤーつる下ろし栽培の収益性（研究）

作物研究室

中山間地域における生産性・収益性の高い組織営農技術の開発と土地利用型品目の導入に向けて、水稻、小麦、大豆の奨励品種決定調査を実施し、供試系統の特性を把握した。水稻は、「岩手 141 号」について、所内試験並びに現地試験により特性調査を実施し、有望と認められたことから、成果として取りまとめるとともに奨励品種検討会議に提案し採用となった。大豆は、「東北 190 号」について、所内試験並びに現地試験により主要特性並びにダイズシストセンチュウに対する抵抗性の評価を行い、有望と認められたことから、成果として取りまとめるとともに奨励品種検討会議に提案し採用となった。水稻作況調査による夏季高温年による作柄解析を行い、生産システム研究室と連名で令和5年産の水稻作柄要因として解析した。

雑穀の新品種開発については、きびとたかきびについて生産力検定を行って特性評価と選抜を行ったほか、きびの重イオンビーム照射M2世代(40Gy1,222 系統、50Gy1,035 系統)をほ場展開し、40Gy88 系統、50Gy83 系統を選抜した。

雑穀の原種生産では、あわ1品種(アワ岩手糯 11 号)と、きび1品種(ひめこがね)を採種した。

県北地域における自動操舵農機を活用した高精度播種・機械除草技術の確立に向けて、RTK-GNSS 方式の自動操舵機器の傾斜地適応性や、機器の違いによる測位精度の確認を行うとともに、雑穀、露地野菜の機械除草技術への利用法について検討を行った。今年度は、新稲作研究会の支援を受け、中山間地域におけるロボットトラクタの特性評価委を行った。また、農業機械技術クラスター事業「雑穀類対応コンバインの開発」について、たかきび、えごまを対象にした汎用コンバイン改良機(試作2号機)の開発を行い、適応性を評価した。

その他、研究課題や地域課題、その解決方策について共有を目的に、各種研修会等への参加も積極的に行った。

以上の取組から、今年度は以下の研究成果をとりまとめた。

- ・自脱型コンバインを用いた短稈あわ品種の効率的収穫法(指導)
- ・良食味で収量及び栽培特性に優れる早生粳水稻品種「岩手 141 号」(普及)
- ・大豆品種「リョウユウ」の特性(普及)

4 令和5年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

研究推進計画 分野 担当部所	総 課題 数	1 農 業 構 造 ・ 経 営 管 理	2 生 産 工 学	3 水 稻	4 畑 作 物	5 特 産 作 物	6 果 樹	7 野 菜	8 花 き	9 土 壌 作 物 栄 養	10 病 害 虫 制 御	11 乳 用 牛	12 肉 用 牛	13 中 小 家 畜 (豚・鶏)	14 草 地・飼 料 作 物	15 畜 産 環 境
企画管理部	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農業経営研究室	5	5														
生産基盤研究部	39	1	3	24	9	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
水田利用研究室	19	1	2	6	9						1					
生産システム研究室	11		1	9							1					
作物育種研究室	9			9												
園芸技術研究部	62	1	0	0	0	0	23	23	12	0	3	0	0	0	0	0
果樹研究室	24						23				1					
野菜研究室	16	1						14			1					
花き研究室	13								12		1					
南部園芸研究室	9							9								
生産環境研究部	32	1	0	2	2	0	2	2	0	7	16	0	0	0	0	0
土壌肥料研究室	13	1		2	1		1	1		7						
病理昆虫研究室	19				1		1	1			16					
畜産研究所	33	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	19	2	8	0
家畜育種研究室	14												12	2		
家畜飼養・飼料研究室	11									1		3	1		6	
外山畜産研究室	3												1		2	
種山畜産研究室	5												5			
県北農業研究所	21	0	2	8	4	2	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0
園芸研究室	4							3			1					
作物研究室	17		2	8	4	2					1					
総 計	192	8	5	34	15	2	25	28	12	8	23	3	19	2	8	0

1 複数の分野に再掲されている研究課題はそれぞれに計上

2 複数の担当研究室がある研究課題はそれぞれに計上

3 細目課題のない課題は小課題を計上

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

- ・主査： 小課題の主査研究室
- ・No.： 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に()表記
- ・課題： (課題番号)課題名を記載、小課題は太字表示
課題番号：細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
- ・開始・終了： 課題の実施～終了年数
- ・予算区分： 国庫補助；国庫補助事業、国庫委託；国庫委託事業、独法委託；独法委託事業、民間委託；民間委託事業
令達；令達予算研究、県単研究；県単予算予算、県単採種；主要農作物採種管理費
- ・担当： 小課題、細目課題の担当研究室名

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【農業経営研究室】						
農業経営	1	(R3-1)集落営農組織の実態・課題を踏まえた経営維持・発展方向の提示	R3	R5	県単	農業経営
農業経営	2	(R3-2)経営環境の変化に対応した農業技術体系データの提示	R3	R7	県単	農業経営
農業経営	3	(R3-3)2020年農林業センサス等を活用した農業構造動向分析	R3	R5	県単	農業経営
農業経営	4	(R3-4)スマート農業技術の導入・定着プロセスと利活用方策の提示	R3	R5	県単	農業経営
農業経営	5	(R3-19)水田等を活用した野菜産地・経営体の取組及びマネジメント手法の提示	R3	R7	県単	農業経営/水田/野菜/土壌肥料
【生産基盤研究部水田利用研究室】						
水田利用	6	(803)水稻奨励品種決定調査	H14	R5	県単	水田利用/作物
水田利用		(803-1000)予備調査	H14	R5	県単	水田利用
水田利用		(803-2000)本調査	H14	R5	県単	水田利用
水田利用		(803-3000)水稻奨励品種決定調査現地調査	H14	R5	県単	水田利用/作物
水田利用		(803-4000)有望系統の栽培法	H14	R5	県単	水田利用/作物
水田利用	7	(807)水田雑草の効果的防除技術の開発	H14	R5	民間委託	水田利用/作物
水田利用		(807-1000)水稻作用除草剤第2次適用性試験	H14	R5	民間委託	水田利用/作物
水田利用		(807-3000)畦畔雑草の草刈り方法	R3	R5	県単	水田利用
水田利用	8	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	H14	R5	独法等委託	水田利用
水田利用	9	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	H14	R5	県単	水田利用/作物
水田利用		(890-1000)麦類の生育相と気象反応の解明	H14	R5	県単	水田利用/作物
水田利用		(890-2000)大豆の生育相と気象反応の解明	H14	R5	県単	水田利用/作物
水田利用	10	(891)畑作物原々種・原種生産	H22	R5	県単	水田利用
水田利用	11	(H19-12)大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	H19	R5	県単	水田利用/作物
水田利用		(H19-12-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	H23	R5	県単	水田利用
水田利用		(H19-12-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	H19	R5	県単	作物
水田利用		(H19-12-3000)(3)有望系統特性調査	H23	R5	県単	水田利用
水田利用	12	(H19-13)麦類の奨励品種決定調査及び有望系統特性調査	H26	R5	県単	水田利用/作物
水田利用		(H19-13-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	H26	R5	県単	水田利用
水田利用		(H19-13-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	H26	R5	県単	作物
水田利用		(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査	H26	R5	県単	水田利用
水田利用	13	(H30-02)岩手県の水田に適した地下かんがいシステムの利用技術の確立	H30	R6	県単/令達	水田利用
水田利用		(H30-02-3000)ほ場水管理システムの導入実証	R4	R5	令達	水田利用
水田利用		(H30-02-4000)地下かんがいシステムほ場の機能維持に資する管理方法の実証	R4	R6	令達	水田利用
水田利用	14	(R2-4)小麦「ナンブキラリ」の高品質安定栽培法	R2	R5	県単	水田利用/土壌肥料/病理昆虫

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【生産基盤研究部生産システム研究室】						
生産システム	15	(061)水稲原々種生産	S22	R5	県単	生産システム
生産システム	16	(062)水稲原種生産	S29	R5	県単	生産システム
生産システム	17	(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析	H14	R5	県単	生産システム/作物
生産システム		(805-1000)水稲作況調査	H14	R5	県単	生産システム/作物
生産システム		(805-2000)水稲優良品種の気象反応試験	H14	R5	県単	生産システム/作物
生産システム		(805-3000)水稲作柄成立要因の解析	H14	R5	県単	生産システム/作物
生産システム	18	(R3-5)リモートセンシングによる水稲生育診断技術の開発	R3	R5	県単	生産システム/土壌肥料/作物
生産システム		(R3-5-1000)ドローンによる生育診断技術の確立	R3	R5	県単	生産システム/土壌肥料/作物
生産システム		(R3-5-2000)ドローンによる玄米タンパク質含有率及び成熟期推定技術の確立	R3	R5	県単	生産システム/作物
生産システム		(R3-5-3000)衛星画像による生育状況の把握及び活用法の検討	R3	R5	県単	生産システム
生産システム	19	(R5-15)水稲の疎播疎植・高精度2段施肥による省力多収栽培技術の開発・実証	R5	R7	独法等委託	生産システム/土壌肥料
生産システム	20	(R5-16)高湿材適応コンバインの開発と性能評価	R5	R7	独法等委託	生産システム
【生産基盤研究部作物育種研究室】						
作物育種	21	(H31-07)多様なニーズに対応する水稲品種の育成	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-1000)交配母本評価と交配	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-2000)初期世代養成	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-3000)個体選抜	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-4000)系統選抜	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-5000)生産力検定試験	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-6000)特性検定試験	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-7000)DNAマーカー等先端技術利用	R1	R5	令達	作物育種
作物育種		(H31-07-8000)育成系統採種	R1	R5	令達	作物育種
作物育種	22	(R3-22)精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稲品種の育成	R3	R7	独法等委託	作物育種
【園芸技術部果樹研究室】						
果樹	23	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法	H14	R5	令達/民間委託	果樹
果樹		(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	H14	R5	令達/民間委託	果樹
果樹		(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	H14	R5	民間委託	果樹
果樹	24	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	H14	R5	県単/民間委託	果樹
果樹		(851-1000)りんごの生育・生態の把握	H14	R5	県単/民間委託	果樹
果樹		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握	H14	R5	県単	果樹
果樹		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	H14	R5	県単	果樹
果樹	25	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出	H14	R5	令達	果樹
果樹	26	(H26-15)りんごのわい化栽培における早期収・省力化を目指した栽培法の確立	H26	R10	県単/独法等委託	果樹
果樹		(H26-15-1000)早期多収・省力化を目指した栽培法の確立	H26	R10	県単	果樹
果樹	27	(H27-24)「JM7」台木利用樹の樹勢衰弱発生要因の解明	H27	R6	県単/独法等委託	果樹/病理昆虫
果樹		(H27-24-1000)「JM7」台木利用樹衰弱症状の現地実態把握	H27	R6	県単	果樹
果樹		(H27-24-2000)病害による「JM7」台木利用樹衰弱症状の対策	H28	R6	県単	果樹/病理昆虫
果樹	28	(H31-10)本県に適したりんご優良品種の開発・導入	R1	R10	令達	果樹
果樹		(H31-10-1000)多様なニーズに適合した県オリジナルりんご品種の育成	R1	R10	令達	果樹
果樹		(H31-10-2000)国育成系統適応性試験(盛岡72～74号)	R1	R10	令達	果樹
果樹		(H31-10-3000)国内外導入品種の選抜	R1	R10	令達	果樹
果樹	29	(H31-11)特産果樹の優良品種の選抜	H30	R10	県単	果樹
果樹		(H31-11-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	H30	R10	県単	果樹
果樹		(H31-11-2000)西洋なしの優良品種の選抜	H30	R10	県単	果樹
果樹	30	(R3-8)ブルーベリーにおける省力的な簡易剪定技術の確立	R3	R7	県単	果樹

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸技術部果樹研究室】 (続き)						
果樹	31	(R4-6)りんごオリジナル品種などの省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
果樹		(R4-6-1000)オリジナル品種の安定生産技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
果樹		(R4-6-2000)優良品種の栽培技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
果樹		(R4-6-3000)優良品種の摘花剤及び摘果剤利用技術の確立	R4	R10	県単/民間委託	果樹
果樹	32	(R5-11)本県に適したぶどう品種の選抜と栽培技術の確立	R5	R9	県単/令達/独法等委託	果樹
果樹		(R5-11-1000)優良品種の特性把握及び選抜	R5	R9	県単	果樹
果樹		(R5-11-2000)系統適応性検定試験	R5	R9	独法等委託	果樹
果樹		(R5-11-3000)生食用品種の安定・省力栽培技術の確立	R5	R9	県単	果樹
果樹		(R5-11-4000)醸造用品種の安定・省力栽培技術の確立	R5	R9	令達	果樹
果樹	33	(R5-17)農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立	R5	R7	独法等委託	果樹/土壤肥料
果樹		(R5-17-1000)りんごせん定枝のバイオ炭製造方法の検討と施用効果の確認	R5	R7	独法等委託	果樹/土壤肥料
【園芸技術部野菜研究室】						
野菜	34	(R2-1)水田転換畑を活用した土地利用型野菜の安定生産技術の確立	R2	R5	県単	野菜
野菜		(R2-1-1000)長期安定出荷のための水田たまねぎ栽培技術の確立	R2	R5	県単	野菜/土壤肥料
野菜		(R2-1-3000)たまねぎにおける効率的防除技術の確立(ドローン防除)	R2	R5	県単	野菜/病理昆虫
野菜		(R2-1-6000)タマネギセット栽培管理技術の開発	R3	R5	県単	野菜
野菜	35	(R3-7)施設栽培における効率的な炭酸ガス施用技術の開発	R3	R7	県単/令達/国庫/独法等委託	野菜
野菜		(R3-7-2000)主要果菜における主要作型での局所施用効果の解明	R3	R5	県単	野菜
野菜		(R3-7-3000)局所施用システムの現地実証	R3	R5	令達	野菜
野菜		(R3-7-4000)トマト周年栽培における局所加温技術の開発	R3	R5	県単/令達	野菜
野菜		(R3-7-5000)キュウリの局所炭酸ガス施用技術の開発	R3	R7	国庫	野菜
野菜	36	(R3-9)夏秋ピーマン安定生産技術の確立	R3	R7	県単/令達	野菜
野菜		(R3-9-1000)夏秋栽培における尻腐れ症対策技術の確立	R3	R7	県単	野菜
野菜		(R3-9-2000)大規模経営での導入を想定した省力的な整枝・誘引方法	R3	R7	県単	野菜
野菜		(R3-9-3000)環境制御機器導入効果の検討	R3	R5	令達	野菜
野菜	37	(R5-1)ブロッコリー安定生産技術の確立	R5	R7	県単	野菜
野菜	38	(R5-18)たまねぎ安定生産に資する品種開発と優良品種の確保	R5	R7	県単/独法等委託/民間委託	野菜
野菜		(R5-18-1000)加工歩留まりの高いF1タマネギ品種の開発	R5	R7	独法等委託	野菜
野菜		(R5-18-2000)岩手県の気候に適する優良品種の確保	R5	R7	県単/民間委託	野菜
野菜	39	(R5-19)国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除技術の構築	R5	R9	独法等委託	野菜

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸技術部花き研究室】						
花き	40	(843)りんどうの育成と生理生態の解明	H14	R5	県単	花き
花き		(843-1000)作況調査	H14	R5	県単	花き
花き		(843-2000)塊茎・越冬芽等の形態形成機構と制御条件の解明	H14	R5	県単	花き
花き		(843-3000)栽培に関わる形質や生理障害等に及ぼす要因解明	H14	R5	県単	花き
花き	41	(H30-06)産地を強化するりんどうの品種育成	H30	R5	令達	花き
花き		(H30-06-6000)花持ちが良く、省力栽培に適したりんどう育種素材の作出	R1	R5	独法等委託	花き
花き	42	(H31-12)りんどうの革新的な栽培技術の開発	R1	R5	県単	花き
花き		(H31-12-1000)需要期向け切り花りんどうの栽培技術の開発	R1	R5	県単	花き
花き		(H31-12-2000)鉢物りんどうの栽培技術の開発	R1	R5	県単	花き
花き	43	(R5-13)産地を強化するりんどうの品種育成	R5	R9	令達/独法等委託	花き
花き		(R5-13-1000)切り花品種の育成	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-2000)鉢花品種の育成	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-3000)親系統の育成	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-4000)親系統の維持	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-5000)未受精胚珠培養等による純系りんどうの作出	R5	R9	令達	花き
花き		(R5-13-6000)花持ちが良く、省力栽培に適したりんどう育種素材の作出	R5	R5	独法等委託	花き
【園芸技術部南部園芸研究室】						
南部園芸	44	(H25-03)地域適応性の高いいちご系統の選定	H25	R8	県単	南部園芸
南部園芸		(H25-03-2000)地域適応性の高い夏秋どり栽培向けいちご系統の選定	H25	R8	県単	南部園芸
南部園芸		(H25-03-5000)地域適応性の高い促成栽培向けいちご品種の選定	R1	R7	県単	南部園芸
南部園芸	45	(H29-01)いちご閉鎖型高設栽培システムの管理方法の改良	H29	R5	県単	南部園芸
南部園芸	46	(R3-10)いちご夏秋作型における秋期収量向上のための草勢維持管理技術の開発	R3	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R3-10-1000)電照用電球のLED代替技術の検証	R3	R5	県単	南部園芸
南部園芸		(R3-10-2000)草勢維持のための株管理手法の改良	R4	R6	県単	南部園芸
南部園芸		(R3-10-3000)定植苗の芽数増加手法の開発	R4	R6	県単	南部園芸
南部園芸	47	(R4-7)いちごの夏秋どり栽培における安定生産技術の開発	R4	R6	独法等委託	南部園芸
南部園芸	48	(R5-12)いちご閉鎖型高設栽培システムの培地無加温条件に対応した施肥方法の開発	R5	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R5-12-1000)基肥、追肥の施用方法の検討	R5	R7	県単	南部園芸
南部園芸		(R5-12-2000)石灰資材の有効性の検証	R5	R7	県単	南部園芸
【生産環境研究部土壌肥料研究室】						
土壌肥料	49	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査	H15	R5	県単	土壌肥料
土壌肥料	50	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査	H15	R12	県単	土壌肥料
土壌肥料		(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果	H15	R12	県単	土壌肥料
土壌肥料		(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果	H15	R12	県単	土壌肥料
土壌肥料	51	(H16-22)新肥料の実用化	H16	R7	民間委託	土壌肥料
土壌肥料	52	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調査	H20	R8	国庫委託	土壌肥料
土壌肥料	53	(R2-10)革新的な土壌データの取得方法およびデータ高付加価値化手法の開発	R2	R7	独法等委託	土壌肥料
土壌肥料	54	(R4-5)基肥施用から荒代掻きまでの日数が水稻生育に及ぼす影響の解明	R4	R7	県単	土壌肥料
土壌肥料	55	(R5-10)若手県南部における耐倒伏性の強い小麦の品種特性を生かした多収肥培管理技術の確立	R5	R7	県単	土壌肥料

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【生産環境研究部病理昆虫研究室】						
病理昆虫	56	(402)新農薬の効果検定と防除指針作成	H9	R5	民間委託	果樹/野菜/花き/病理昆虫/園芸/作物
病理昆虫		(402-2000)県北農業研究所	H9	R5	民間委託	園芸/作物
病理昆虫		(402-4000)生産環境研究部	H9	R5	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-5000)園芸技術研究部	H16	R5	民間委託	果樹/野菜/花き
病理昆虫	57	(H09-03)【植物防疫事業研究】	H9	R5	令達	病理昆虫
病理昆虫	58	(H30-05)りんご園地における下草管理とカブリダニ類等土着天敵の関係	H30	R7	国庫	果樹/病理昆虫
病理昆虫		(H30-05-1000)りんご園地における下草管理とカブリダニ類等土着天敵の関係	H30	R7	国庫	病理昆虫
病理昆虫	59	(H30-10)(地域特産物における新防除資材の実用化)	H30	R5	国庫	病理昆虫
病理昆虫		(H30-10-1000)(野菜における新防除資材の実用化)	H30	R5	国庫	病理昆虫
病理昆虫		(H30-10-2000)(花きにおける新防除資材の実用化)	H30	R5	国庫	病理昆虫
病理昆虫		(H30-10-3000)(果樹における新防除資材の実用化)	H30	R5	国庫	病理昆虫
病理昆虫		(H30-10-4000)(その他作物における新防除資材の実用化)	H30	R5	国庫	病理昆虫
病理昆虫	60	(R3-20)殺虫剤を使用しない斑点米カメムシ総合防除体系の検討	R3	R5	国庫	水田利用/生産システム/病理昆虫
病理昆虫		(R3-20-1000)畦畔管理体系の確立	R3	R5	国庫	水田利用/病理昆虫
病理昆虫		(R3-20-2000)割れ初に関する品種特性の把握	R3	R5	国庫	生産システム/病理昆虫
病理昆虫	61	(R4-1)農薬だけに頼らない施設トマトの害虫防除技術の開発	R4	R6	国庫	病理昆虫
病理昆虫	62	(R4-8)斑点米カメムシ類の発生予測システムの実用化	R4	R8	独法等委託	病理昆虫
病理昆虫	63	(R5-2)リンゴ黒星病の一次感染の早期化に対応した防除体系の確立	R5	R7	国庫	病理昆虫
病理昆虫	64	(R5-3)ネギ小菌核病および白絹病の総合防除対策の確立	R5	R7	国庫	病理昆虫
病理昆虫	65	(R5-4)大豆病害の総合防除対策の確立	R5	R7	国庫	病理昆虫
病理昆虫	66	(R5-20)リンゴにおける土着天敵の動態解明と検出技術の実践評価	R5	R9	独法等委託	病理昆虫
病理昆虫	67	(R5-21)PMMoVを中心とした接触伝染性ウイルスにおける月桃資材の利用法の確立	R5	R7	独法等委託	病理昆虫
【畜産研究所家畜育種研究室】						
家畜育種	68	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	R10	令達	家畜育種
家畜育種	69	(237)日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)	H17	R10	令達	家畜育種
家畜育種	70	(H30-13)種雄牛選抜におけるゲノム育種価の実用化	H30	R8	令達	家畜育種
家畜育種	71	(R2-2)周年出荷のための日本短角種長期肥育技術の確立	R2	R6	県単	家畜育種
家畜育種	72	(R2-3)肥育前期に混合飼料を活用した黒毛和種肥育期間短縮技術の確立	R2	R6	県単	家畜育種
家畜育種	73	(R3-13)母系素材鶏を改良した南部かしわの特性および長期飼育技術の確立	R3	R5	県単	家畜育種
家畜育種	74	(R4-4)県内パークシャー種豚群の産肉能力向上と可食肉量を増加させる蛋白質給与体系の確立	R4	R7	県単	家畜育種
家畜育種	75	(R4-9)ゲノム情報を活用した日本短角種集団における遺伝的多様性の評価と近交回避交配法の確立	R4	R6	独法等委託	家畜育種
家畜育種	76	(R5-6)配合飼料を節減する日本短角種の低コスト肥育技術の確立	R5	R8	県単	家畜育種
家畜育種	77	(R5-7)黒毛和種における脂肪交雑形状と脂肪酸組成との関係解析	R5	R7	令達	家畜育種
家畜育種	78	(R5-8)黒毛和種繁殖雌牛における授精の適否を簡易に把握する手法の確立	R5	R7	県単	家畜育種
家畜育種	79	(R5-22)黒毛和種におけるゲノムデータを活用した有害変異保因牛の遺伝的原因の解明	R5	R7	独法等委託	家畜育種

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【畜産研究所家畜飼養・飼料研究室】						
家畜飼養・飼料		(H16-22-5000)畜産研究所担当分	H20	R7	民間委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	80	(R3-14)ペレニアルライグラス晩生優良品種の特性確認	R3	R5	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	81	(R3-15)飼料用とうもろこし市販品種の特性比較	R3	R6	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	82	(R3-16)温暖化に対応した採草地管理	R3	R7	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	83	(R3-24)除染草地と耕起困難草地における放射性セシウム吸収抑制のための維持管理技術の開発	R3	R7	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	84	(R4-2)乳用牛群検定データの解析による酪農の生産性向上要因の分析と活用	R4	R6	令達	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	85	(R4-3)繋留飼養の搾乳牛における効果的なTMR給与方法の確立	R4	R7	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	86	(R4-10)オーチャードグラス優良品種の特性確認	R4	R7	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	87	(R4-11)多年生ライグラス類を利用した追播技術の確立	R4	R8	独法等委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	88	(R5-5)乾乳期における放し飼いの普及に向けた管理体系の確立	R5	R7	県単	家畜飼養・飼料
【畜産研究所外山畜産研究室】						
外山畜産	89	(R3-17)ドローンを活用したリモートセンシングによる大規模放牧地の効率的植生診断技術の確立	R3	R5	県単	外山畜産
外山畜産	90	(R3-18)日本短角種における自然交配時の分娩時期の推定	R3	R6	県単	外山畜産
外山畜産	91	(R5-9)黒毛和種哺乳子牛のICT機器活用による早期疾病発見技術の確立	R5	R7	県単	外山畜産
【畜産研究所種山畜産研究室】						
種山畜産	92	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	R5	県単	家畜育種/種山畜産
種山畜産	93	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	H1	R5	県単	家畜育種/種山畜産
種山畜産	94	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査	H14	R5	県単	種山畜産
【県北農業研究所園芸研究室】						
園芸(県北)	95	(R3-11)県北地域の施設きゅうり等に適した環境制御技術の開発	R3	R7	県単/国庫	園芸
園芸(県北)		(R3-11-1000)県北地域に適した低コスト暖房技術の開発	R3	R6	県単/国庫	園芸
園芸(県北)	96	(R3-21)抵抗性品種によるキャベツ根こぶ病対策の確立	R3	R5	国庫	園芸
園芸(県北)		(R3-21-1000)既存の抵抗性寒玉系品種の特性評価	R3	R5	国庫	園芸
園芸(県北)	97	(R5-14)雨よけほうれんそうにおける環境制御技術の開発	R5	R7	令達	園芸
園芸(県北)		(R5-14-1000)雨よけほうれんそうにおける環境制御技術の開発	R5	R7	令達	園芸
【県北農業研究所作物研究室】						
作物(県北)	98	(H22-22)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する雑穀優良種子の生産	H16	R5	令達	作物
作物(県北)	99	(H31-08)収量・品質に優れた雑穀新品種の育成	R1	R5	令達	作物
作物(県北)		(H31-08-1000)雑穀新品種・系統の育成	R1	R5	令達	作物
作物(県北)	100	(R3-6)県北地域における自動操舵農機を活用した高精度播種・機械除草技術の確立	R3	R7	令達	園芸/作物
作物(県北)		(R3-6-1000)雑穀における高精度直播栽培体系の確立	R3	R7	令達	作物
作物(県北)	101	(R3-25)雑穀類対応コンバインの開発と収穫適応性の評価	R3	R6	独法等委託	作物

(3)令和6年度からの試験研究を要望された課題とその措置一覧

No.	部会	部会 No.	要望機関	要望課題名	担当研究室 ○主査	措置 区分
1	農産	1	農業農村指導士協会	スマート農業技術の導入条件の整理	○企画管理部 農業経営研究室	B,C
2	農産	2	農業農村指導士協会	大豆の極早生品種の選定	○生産基盤研究部 水田利用研究室 県北農業研究所 作物研究室	B,C
3	農産	3	農業農村指導士協会	小麦後作で栽培できる大豆品種の選定	○生産基盤研究部 水田利用研究室	B,C
4	農産	4	全農いわて	新たに奨励品種になった「ナンプキラリ」の品質分析ランク区分が「A」となる栽培法について	○生産基盤研究部 水田利用研究室	B
5	農産	5	全農いわて	トリフルラリン乳剤の土壌混和処理による大豆の難防除雑草対策	○生産基盤研究部 水田利用研究室	B,C
6	農産	6	農業普及技術課	環境保全型稲作に対応した省力的雑草管理技術の確立	○生産基盤研究部 生産システム研究室	A3(R7),C
7	農産	7	農業普及技術課 農産園芸課	銀河のしずくの乾田直播栽培法の確立	○生産基盤研究部 生産システム研究室	A1
8	農産	8	全農いわて	銀河のしずくの栽培特性の解明	○生産基盤研究部 生産システム研究室 生産環境研究部 土壌肥料研究室	C,D
9	農産	9	全農いわて	リモートセンシングによる水稻初期害虫要防除水準の判定	○生産環境研究部 病理昆虫研究室 生産基盤研究部 生産システム研究室	C
10	園芸	1	盛岡農業改良普及センター	種無し皮ごと食べられるりんご極早生品種の育種	○園芸技術研究部 果樹研究室	B,C
11	園芸	2	二戸農業改良普及センター	りんご品種「はるか」の蜜入り向上技術の確立について	○園芸技術研究部 果樹研究室	A2(R7)
12	園芸	3	二戸農業改良普及センター	おうとうの低樹高仕立て技術の確立について	○園芸技術研究部 果樹研究室	A1
13	園芸	4	農業農村指導士協会	りんごの凍霜害対策技術の開発	○園芸技術研究部 果樹研究室	B,C,D
14	園芸	5	農業農村指導士協会	アスパラガスの安定生産に向けた早期収穫作型等の確立	○園芸技術研究部 野菜研究室	C
15	園芸	6	農業普及技術課 中部農業改良普及センター	たまねぎ栽培における秋まき直播栽培技術の確立	○園芸技術研究部 野菜研究室	A3(R6,8), C
16	園芸	7	宮古農業改良普及センター	施設果菜類（雨よけハウス）の雇用型経営に対応した労働生産性の高い栽培方法の確立	○園芸技術研究部 野菜研究室	A3(R6),B
17	園芸	8	全農いわて	ピーマン尻腐れ果発生低減に向けた施肥管理指標の策定	○生産環境研究部 土壌肥料研究室 園芸技術研究部 野菜研究室	D
18	園芸	9	農業農村指導士協会	りんご紫紋羽病対策技術の開発	○生産環境研究部 病理昆虫研究室 園芸技術研究部 果樹研究室	C
19	畜産	1	全農いわて	いわて牛のSDG'sの取り組みについて	○畜産研究所 家畜育種研究室	C,D
20	畜産	2	全農いわて	黒毛和種におけるオレイン酸、脂肪酸の向上について	○畜産研究所 家畜育種研究室	C
21	畜産	3	中部農業改良普及センター	草地における家畜糞堆肥の散布に係る窒素成分の肥効率及び複数年に渡る窒素放出を勘案した施肥体系の確立	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	A3(R6)
			農業普及技術課	採草地における堆肥由来窒素・リン酸・カリの肥効率（有効率）並びに堆肥連用効果の解明		
22	畜産	4	農業普及技術課	牧草地における減肥基準の策定	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	A3(R6)
23	畜産	5	全農いわて	放牧地における乳用育成牛の乾物摂取量モニタリング手法の開発	○畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	A3(R6)

5 共同研究等の推進

(1) 農林水産省委託プロジェクト研究事業(委託)

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
果樹等の幼木期における安定生産技術の開発	農研機構(*)	R2～6	リンゴでの急性枯死症状の発生実態と対策技術の開発	果樹、病理昆虫
先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立	農研機構(*)	R3～7	キュウリの局所炭酸ガス施用技術の開発	野菜
ゲノム編集技術を活用した農作物品種・育種素材の開発	(公財)岩手生物工学研究センター	R元～5	(1)リンドウにおけるゲノム編集の高度化技術の開発と利用 (2)リンドウ新規育種素材の開発と利用	花き
省力的かつ現場で使い易いコメの無機と素低減技術の開発	農研機構(*)	H30～R4	水管理・資材施用によると素・カドミウムの同時低減のための現場実行性の高い栽培管理技術の開発	土壌肥料
省力的なIPMを実現する病害虫予報技術の開発	農研機構(*)	R4～8	発生要因の解析と予測モデルの検証(イネミズ、ドロオイ、アカスジ、アカヒゲ)	病理昆虫
特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証委託事業	農研機構(*)	R3～7	草地における放射性セシウム吸収抑制技術の開発・実証と未除草地利用可否判断基準の策定	家畜飼養・飼料

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

(2) イノベーション創出強化研究推進事業(委託)

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
わが国の稲作のイノベーションを実現する初冬直播き栽培法の確立	国立大学法人岩手大学	R5	初冬直播き栽培法における経営評価を実施する。	農業経営
疎播疎植・ペースト2段施肥による「みどりの稲作」プロジェクト	農研機構(*)	R5～8	岩手県での「銀河のしずく」の疎播疎植・高精度ペースト2段施肥体系による省力多収栽培技術を確立する。	生産システム
精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稻品種の育成	(公財)岩手生物工学研究センター	R3～7	これまでに得られたゲノム情報と作出した育種素材を活用し、葉身形態に関する遺伝子領域を集積させた系統の個葉光合成能および乾物生産能力を明らかにするとともに、不良形質の発現を回避しながら有用形質関連遺伝子を集積する精緻なゲノム育種により迅速な品種育成と栽培特性把握を行う。	作物育種
省力・大規模化と収穫・出荷期間の大幅拡大を可能とするタマネギセット栽培体系の構築	農研機構(*)	R3～6	セット春植および秋植栽培に適する品種・定植時期等の検討	野菜
国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除技術の構築	農研機構(*)	R5～9	根切り時期が腐敗性病害の発生に及ぼす影響を明らかにする。	野菜

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
次世代型土壌ICTによる土壌管理効果可視化API開発と適正施肥の実証	農研機構(*)	R5～7	岩手県において、土地利用変化に伴う土壌種変化を予測する人工知能AI開発のための土壌断面調査データベースの整備を行う。	土壌肥料
新たな農資源ゲットウを利用した新規抗植物ウイルス剤の創製	農研機構(*)	R5～7	トウガラシ微斑ウイルスに対する月桃資材の有効性を所内試験において評価する。	病理昆虫
越夏性に優れるライグラス新品種を用いた省力的な草地の高位安定生産技術の開発	農研機構(*)	R4～8	東北北部内陸部での採草利用の「草地メンテナンス」技術実証栽培を行うために、所内の経年採草地に、試験区を設置し、初期生育を調査する。	家畜飼養・飼料

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

(3) 公設試等連携可能性調査 (県ふるさと振興部 10/10委託)

課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
有機質肥料・少肥適応型の水稲品種育成に関する基盤研究	(公財)岩手生物工学研究センター	R5	有機質肥料・化学肥料の施用に対する生育応答や養分吸収、微生物叢動態の違いを、水稲系統・品種間で比較する。	土壌肥料

(4) その他独法等からの委託 (10 / 10委託)

事業・課題名	代表機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
受託研究	農研機構(*)	R4～5	ICT利用による東北地域における畑作物(大豆・小麦)収量向上サービスの実証・実装	農業経営
受託研究	テラスマイル株式会社	R4～5	・産地支援手引書の作成 ・データを活用した経営・技術支援	農業経営
受託研究	農研機構(*)	R2～6	耐病性に優れた府県向け高品質安定多収小麦品種育成に向けた有望系統の開発	水田利用
受託研究	農研機構(*)	R2～6	耐病性に優れた安定多収で、高品質で加工適性に優れた精麦用大麦・裸麦品種育成に向けた有望系統の開発	水田利用
受託研究	農研機構(*)	R4～	24時間稼働可能なコンバインの開発に関する研究	生産システム
受託研究	農研機構(*)	H23～	ブドウ育種試験に係る系統適応性・特性検定試験	果樹
受託研究	農研機構(*)	R5	岩手県のリンゴ園地における剪定技量、バイオ炭の生成量と品質、バイオ炭の圃場散布が土壌や樹体に及ぼす影響の試料およびデータの収集	果樹
受託研究	農研機構(*)	R5～7	カラムナータイプリンゴ品種の育成	果樹
受託研究	農研機構(*)	R5～7	加工歩留まりの高いF1タマネギ品種の開発	野菜
受託研究	農研機構(*)	R4～6	夏秋いちご「夏のしずく」による夏秋期の安定生産技術・病虫害防除技術確立	南部園芸

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

事業・課題名	代表機関	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
受託研究	農研機構(*)	R5～7	病害抵抗性いちご品種候補の開発	南部園芸
受託研究	東北農政局	H27～	農地管理実態調査 ・定点調査:水田4、普通畑11、草地9 ・基準点調査:水田、普通畑	土壌肥料
受託研究	農研機構(*)	R3～5	黒毛和種牛の肉質差別化指標開発とゲノミック評価手法の高度化による肉質・繁殖能力の改良技術の開発	家畜育種
受託研究	岩手県	R3～5	雑穀類対応コンバインの開発	県北作物
受託研究	国立大学法人福島大学	R5～11	施設園芸におけるエネルギー循環利用技術体系の構築と実証	県北園芸

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

(5) 民間委託試験 (10 / 10委託)

事業名・課題名	相手方	研 究 の 内 容	担当研究室
稲民間育成品種評価試験	(公社)農林水産・食品産業技術振興協会	民間において育成された稲の品種に関する評価試験、育成品種に関する特性及び生産力等の解明	作物育種
野菜新品種系統委託試験	(一社)日本種苗協会	岩手県におけるタマネギの新品種・系統の生育適正、斉一性等の比較検討	野菜
資材効果試験	東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社	ホップ栽培におけるメタン発酵残渣液を利用した施肥法の検討	土壌肥料
資材効果試験	コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社	窒素固定細菌資材 (Utrisha N) の水稻への効果確認	土壌肥料
ホップ生産における病害虫防除に関する試験	ビール酒造組合	ホップ病害虫の発生生態解明およびその防除技術の確立	病理昆虫
プログラムマネージャー (PM) の育成・活躍推進プログラム	国立研究開発法人科学技術振興機構	製鋼スラグ活用によるトマト青枯病耐病効果メカニズム解明及び製鋼スラグ肥料普及プログラム推進	病理昆虫
飼料作物等高能力新品種選定調査事業	(一社)日本草地畜産種子協会	オーチャードグラス新品種の比較試験の実施	家畜飼養・飼料
日本短角種の持続可能な生産システム開発事業	国立大学法人東北大学 (JRA事業)	ゲノム情報を活用した日本短角種集団における遺伝的多様性の評価と近交回避交配法の確立	家畜育種
和牛ゲノムデータ駆動型未診断疾患解明事業	国立大学法人琉球大学 (JRA事業)	和牛の未解明な疾患についてゲノムデータと臨床データから遺伝子を特定し、淘汰や交配に活用する手法の開発	家畜育種

事業名・課題名	相手方	研究の内容	担当研究室
情報処理等先端技術の活用による高生産性システムの確立	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	岩手県中山間地域におけるロボットトラクタの傾斜地適応性の把握及び雑穀栽培での活用検討	県北作物
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(一社)岩手県植物防疫協会	農薬及び植物調節剤等の効果判定	病理昆虫、水田利用、生産システム、果樹、野菜、県北作物、県北園芸
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	(対象作物) 水稲、小麦、大豆、りんご、トマト、レタス、タマネギ(春まき)、キャベツ、オーチャードグラス	水田利用、生産システム、果樹、野菜、土壌肥料、県北園芸、家畜飼養・飼料

(6) (公財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

研究課題名	生工研担当	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稲における重要形質のゲノム育種法の開発	ゲノム育種研究部	R元～5	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーの開発及びそれらを用いた岩手オリジナル水稲品種の育成	作物育種
重イオンビーム照射によるブルーベリー変異体獲得に関する研究 大和造園土木株式会社との3者契約	生物資源研究部	R5～7	ブルーベリーへの重粒子線照射を行って、生物影響と突然変異誘起率の検討を行う。至適条件を決定後、有用変異系統の作出を試みる。	果樹
リンドウの新品種開発支援・促進技術の開発 リンドウ等の新規有用遺伝資源の開発	園芸資源研究部	R元～5	純系や倍数性を利用した育種技術及びDNAマーカーの開発と新品種育成への応用 安定栽培に寄与する情報として生理・生態の解明 重イオンビームを利用した花色・花形・開花期・耐病性等の有用形質に関わる新規育種素材の開発	花き
現場ニーズに対応した即応的植物病害防除技術の開発	園芸資源研究部	R元～5	リンドウこぶ症関連ウイルス(GKaV)の感染実験系の確立と耐病性研究への利用	病理昆虫
雑穀における重要形質のゲノム育種法の開発	ゲノム育種研究部	R元～5	ゲノム解析技術をアワ、キビ、タカキビ、ヒエなどイネ科雑穀に適用し、農業上重要形質に関わる有用遺伝子を同定し、その機能を解明する。	県北作物

(7) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	H6～	果樹

(8) FAMS(動物医学食品安全教育研究センター)

開催月日	場 所	内 容
R5.9.29	岩手大学	「持続可能な畜産に向けて・・・飼料と動物福祉の問題を考える」
R6.3.27	岩手大学	-牛の生産と家畜感染症に係る最新情報-自動搾乳システムの普及と牛伝染性リンパ種・アフリカ豚熱

(9) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
生物遺伝資源交換に関する研究協定	農研機構(*)	H14～	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体
水稲いもち病圃場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定	農研機構(*)、青森県産業技術研究センター農林総合研究所(**)、宮城県古川農業試験場、秋田県農業試験場、山形県、福島県	R3～5	今後の稲いもち病抵抗性評価で正確性を期すため、未だ基準品種が策定されていない真性抵抗性遺伝子型「 <i>Pii</i> 」 「 <i>Pik</i> 」 「 <i>Pib</i> 」等に対応する基準品種の追加策定を行う。	作物育種
日本ワインのテロワールの解明	日本ワイナリー協会(独立行政法人酒類総合研究所)	R3～5	岩手県内のワイン用ブドウの生育、及び熟期の果実成分に関する調査	果樹
寒冷地向けイチゴ品種の育成に関する研究	農研機構(*)、宮城県農業・園芸総合研究所	R元～8	岩手県および宮城県における地域適応性等に基づく系統選抜を実施し、寒冷地において安定生産を可能とするイチゴ品種の育成を推進する。	南部園芸
ドローンを活用したリモートセンシングによる大規模放牧地の効率的植生診断技術の確立	岩手大学	R3～5	ドローンを活用したリモートセンシングによる大規模放牧地の効率的植生診断技術の確立	外山畜産

* (国立研究開発法人)農業・食品産業技術総合研究機構

** 地方独立行政法人

(10) 産学官連携

名 称	開催年月	場 所	内 容	担当研究室
第1回 いわて産学官連携推進協議会会議	R5.5.31	盛岡市 (盛岡市産学官連携研究センター)	令和4年度活動報告および5年度事業計画について	研究企画室
リエゾンIマッチングフェア	R6.3	オンライン	最近の研究シーズのプレゼンテーション	研究企画室

1 令和5年度リエゾン-Iマッチングフェアでプレゼンテーションを行った研究シーズ

研究シーズ名	担当研究室
岩手県オリジナルの短稈・多収あわ品種「アワ岩手糯11号」	県北作物

6 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)	
水稲奨励品種決定現地調査 (粳)	雫石町	長山	生産基盤研究部 水田利用	
	(粳)	紫波町		大巻
	(粳)	岩手町		土川
	(粳)	花巻市		鍋倉
	(粳)	西和賀町		沢内前郷
	(粳)	奥州市		江刺稲瀬
	(粳)	平泉町		平泉
	(粳)	大船渡市		日頃市
	(粳)	遠野市		上郷町
	(粳)	山田町		豊間根
	(粳)	洋野町		種市
	(粳)	二戸市		野々上
	麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町		奥中山
麦類奨励品種決定調査(現地調査)	一関市	舞川		
	矢巾町	煙山		
大豆奨励品種決定調査(現地調査)	奥州市	江刺田原		
	盛岡市	玉山		
地下かんがい及びほ場水管理システムの利用技術の確立	花巻市	宮野目	生産基盤研究部 作物育種	
【イノベーション創出強化研究推進事業】精緻なゲノム改良による低コスト生産可能な超多収良食味水稲品種の育成にかかる現地実証圃	奥州市	江刺稲瀬		
りんご育種系統の現地適応性試験	二戸市	金田一	園芸技術研究部 果樹	
	宮古市	内の沢		
	滝沢市	元村		
	盛岡市	黒川		
	奥州市	江刺米里		
	一関市	花泉町金沢		
	一関市	舞川		
各地域に適したリンゴ早期成園化技術の実証	紫波町	長岡	園芸技術研究部	
岩手ワインヒルズ推進事業に係る現地品種比較試験	陸前高田市 野田村	米崎町 根井		
「農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究現場ニーズプロジェクト」果樹等の幼木期における安定生産技術の開発	奥州市	江刺鴨沢		
りんごの「M台木利用樹における樹勢衰弱症状対策技術の現地実証	花巻市	石鳥谷町滝田		
ブルーベリー簡易剪定法の現地実証	軽米町	観音林		

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
「施設栽培における効率的な炭酸ガス施用技術の開発」 (局所施用システムの現地実証)	盛岡市 八幡平市 奥州市 一関市 宮古市 大槌町 北上市	猪去 松尾 胆沢 大東 田鎖 大槌 二子	園芸技術研究部 野菜
(トマトの夏秋作型における出荷予測ツールの開発)			
「産地を強化するりんどうの品種育成」 (切り花向け有望系統の現地適応性試験)	奥州市 一戸町	衣川 小友	園芸技術研究部 花き
「産地を強化するりんどうの品種育成」 (鉢花向け有望系統の現地適応性試験)	北上市	岩崎	
「岩手県南部における耐倒伏性の強い小麦の品種特性を生かした 多収肥培管理技術の確立」	一関市	舞川	生産環境研究部 土壌肥料
新農薬の効果試験と防除指針作成 りんどう葉枯病、リンドウ褐斑病、リンドウ花腐菌核病	八幡平市	安代	生産環境研究部 病理昆虫
省力的IPMを実現する病害虫予報技術の開発 (現地調査)	盛岡市	好摩	
殺虫剤だけに頼らない斑点米カメムシ総合防除体系の検討 (現地調査)	雫石町	御明神 晴山	
殺虫剤だけに頼らない施設トマト害虫の総合防除技術の確立 (現地調査)	盛岡市	三本柳	
JM7 台木利用樹の樹勢衰弱発生要因の解明 (現地調査)	奥州市	江刺	(園芸技術研究部 果 樹)
りんご褐斑病を中心とした春季の防除体系の再検討 (現地調査)	盛岡市	東中野	
りんご園地における下草管理とカブリダニ類等土着天敵の関係 (現地調査)	花巻市	東和	
ホップ生産における病害虫防除に関する包括的研究(気象変動を考 慮したハダニ類防除技術の検討)	奥州市 軽米町	江刺 晴山	
南部かしわの長期飼育技術の確立(現地試験)	西和賀町	沢内	畜産研究所 家畜育種研究室
バ - クシャ - 種豚群の産肉能力調査	岩泉町	有芸	
日本短角種における自然交配時の分娩時期の推定	盛岡市	玉山	畜産研究所 外山畜産研究室
黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定法)	滝沢市 奥州市 一関市 紫波町 北上市 盛岡市 二戸市	上岩手山 江刺、胆沢 舞川、藤 沢、花泉 片寄 和賀、上江 釣子 下田 足沢	畜産研究所 種山畜産研究室
県北地域のきゅうり等栽培に適したCO ₂ 施用法の開発	二戸市	舌崎	県北農業研究所 園芸
キャベツ根こぶ病抵抗性品種及び罹病性品種の発病程度の比較	八幡平市	細野	
水稻奨励品種決定調査(2)本調査 早生系統	二戸市 久慈市 軽米町 久慈市	安比 宿戸 上館 宇部	県北農業研究所 作物
大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査(リョウユウ)	軽米町	上館	
雑穀類対応コンバインの開発	軽米町	長倉	